

大分県獣医師会の譲渡犬支援事業

佐藤州司† (大分県獣医師会前常務理事)



1 はじめに

大分県獣医師会では獣医師会単独の事業として、平成19年度から大分県動物管理所で譲渡された雌子犬について希望者には無料で避妊手術を実施し、子犬の譲渡率の向上と殺処分頭数の減少に大きな事業効果を期待されているので、その概要について紹介させていただく。

大分県獣医師会は、譲渡会で譲渡される雌子犬の避妊手術を無料で実施するとともに、譲渡される子犬全頭に対して無料健康診断券を交付し、譲渡率の向上と安楽殺処分頭数の減少を図ることとした。

(2) 事業の仕組み

獣医師会では初の試みとして、県と獣医師会とボランティアグループの三者でこの事業を推進することとし、獣医師会も毎回の譲渡会に参加して譲渡会参加者や新しく里親になった譲受者に事業の説明をし、事業推進に努めている(図1)。

雌子犬が無料避妊手術を受けるときは、必ずマイクロチップを挿入(料金は飼い主負担)することを条件としているが、現在まで苦情等は一切もない(図2)。

2 事業の経過と仕組み

(1) 事業の経過

大分県では県主催の引取り子犬の譲渡会が毎月2回動物管理所で開催され多くの子犬が里親に譲渡されているが、その子犬の内訳は雄が多く雌犬の多くがもらわれずに残り安楽殺処分を余儀なくされている実態にあった。その大きな理由は避妊手術料の経済的負担感から雌子犬の譲り受けが敬遠されていたということであった。

3 実施に当たっての諸問題について

(1) 協力動物病院の指定

獣医師会には小動物部会があり、約80の小動物病院が所属している。この事業に協力してもらうために説

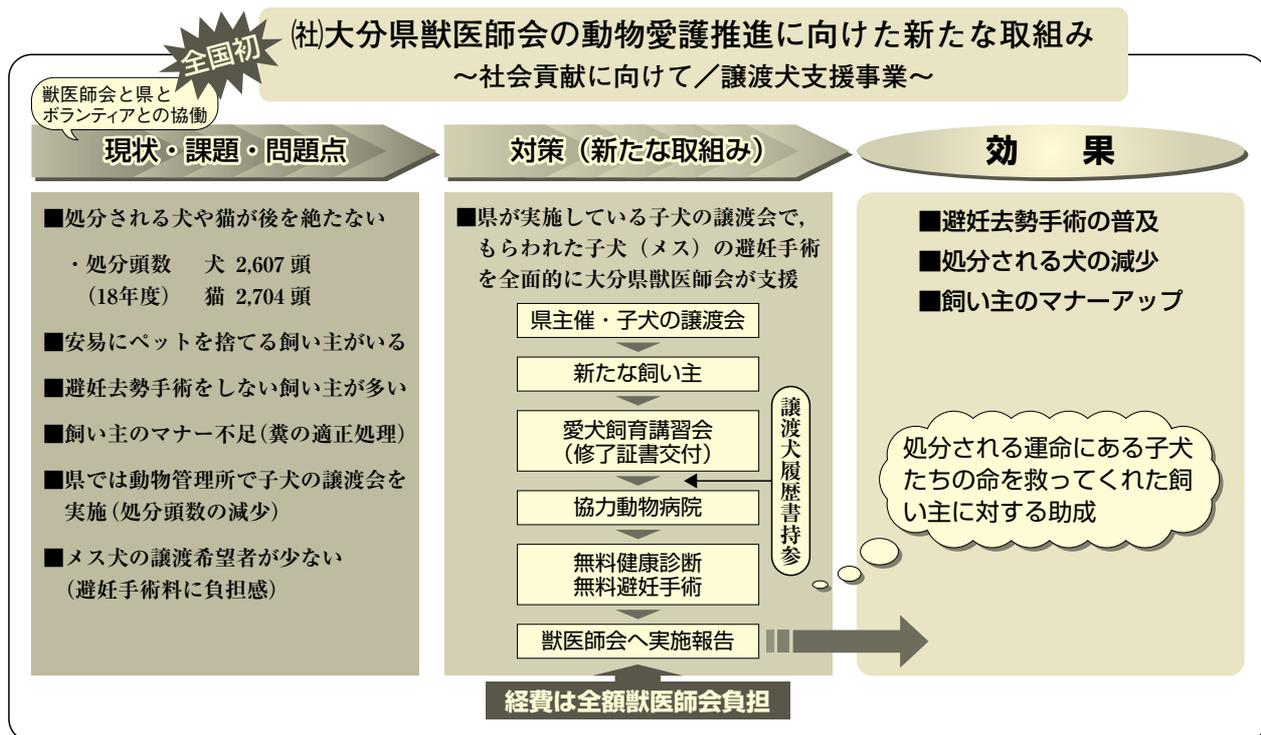


図1 事業の仕組み

† 連絡責任者: 佐藤州司 (大分県獣医師会)

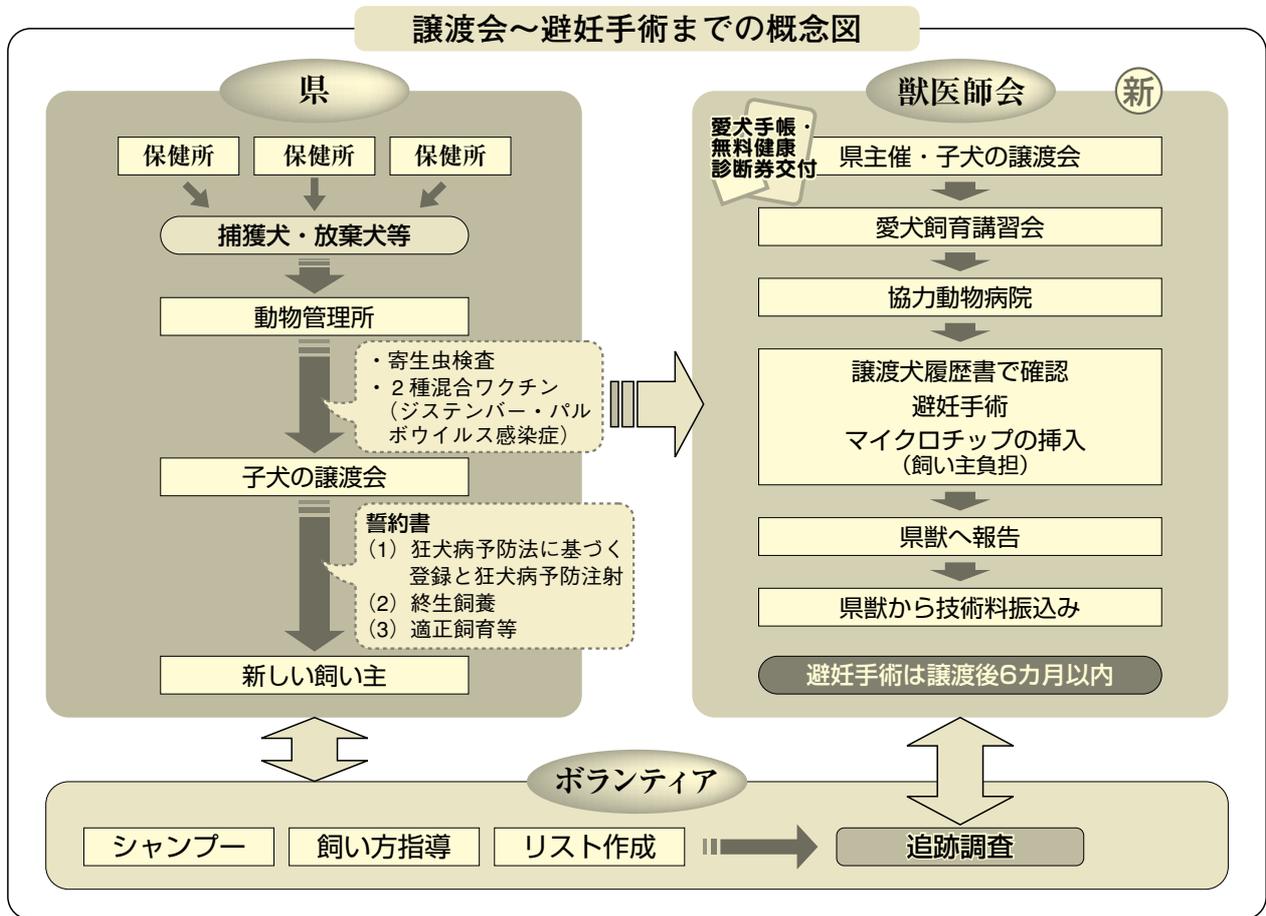


図2 事業の概念図

明会を開催したところ以下の問題点提起があったものの、事業実施から2年が経過したが、持ち込み頭数は減少傾向にある。

- ア 飼い主負担を求めるべきで無料には反対する。
- イ 無料にすると動物管理所への持ち込み頭数が増えるのではないか。

(2) 指定協力動物病院を公募

平成19年度に31病院を指定、その後、平成21年度には46病院(21年3月)となった。

(3) 手術の経費

避妊手術を実施した協力動物病院には、別に定める実費相当額を県獣医師会の予算から支出している。この経費捻出については、社会経済状況が大変厳しい時期ではあったが、会員に公益法人として動物愛護関係事業拡充のため協力をお願いし、平成19年度に会費値上げを実施し増額分を当該事業に充当している。

(4) ボランティアグループの協力

ボランティアグループの名前は「しあわせなしっぽの会」と言い、メンバーの殆どが獣医師会が平成15年から17年にかけて県の委託事業として開催した「動物愛護ボランティアリーダー養成講座」の修了生ばかりである。名前の「しあわせなしっぽ」の意味は譲渡会で新し

い飼い主に抱かれたとたんに、しっぽの動きが元気よくなるからなのだそうである。見ていると確かに、それまで元気なく振っていたしっぽが急にはげしく振られる。うれしさを体全体で表現するのである。私共も思わず感じさせられた。どうしてこんな子犬を捨てるのかと。

ところで彼女達(男性もいるが)の仕事は毎月2回(第2火曜日と最終火曜日)大分県動物管理所で開催される譲渡会のサポートである。彼女達の活躍は見事でグループリーダーの指揮で実に手際よく作業が進められている。

まず1班は12時30分から始まる受付の準備である。展示される子犬の名簿(名簿といっても全てミックス犬なので名前や生年月日は不明だが…)の整理と事前に申込みされた参加者の名簿の準備である。もちろん机や椅子、白板、参加者へ渡す目印のタスキも揃える(図3)。

2班のグループはシャンプーやカットを担当する。設備は充分ではないが今日展示をされる子犬のシャンプーとカットである(図4)。子犬たちは初めての経験で皆固まっている。なかにはプロのトリマーもおり、見事な仕上がりに見える。参加者が抱き上げてもらいやすい臭いもしない。より可愛らしく見せる。

第3班はシャンプーの済んだ犬を展示のコーナーに移



図3 1班による名簿の準備



図5 3班による譲渡の促進



図4 2班によるシャンプー



図6 くじ引きによる譲渡犬の決定



図7 里親が参加する説明会

し、譲渡会に参加した希望者に子犬をさわらせて、抱かせたりして、もらえるように気配りをし、成長したときの体重など相談にのりながら売り込んでいる。なんとももらえるようにと大変な気遣いである。彼女達の努力に頭が下がる（図5）。

12時30分に受付を始め、13時15分には犬を決めてもらう。希望する犬が重なると大変である。ボランティアがくじ引き用のハシを持ってきて抽選が始まる。まずジャンケンで順番を決め、順にハシを引く。見ていると不思議に残り物に福がある（図6）。

犬が決まると里親となる人達は、動物管理所の会議室での1時間程度の説明会に参加する。動物管理所の所長、獣医師会、ボランティア代表の順でそれぞれ飼い方、予防注射、無料避妊手術や無料健康診断の手続き、獣医師会が行う「愛犬飼育講習会」、マイクロチップの挿入等について詳しく説明される。初めて犬を飼う人は少ないようだが、活発に質問が出される（図7）。

説明会は、飼い主との接点を作る等、大変効果がある。

このように譲渡会は、ボランティアグループの応援なくして継続することは困難と思われる。

(5) 愛犬飼育講習会の実施

現在獣医師会が譲渡犬の譲渡者に対し行っている愛犬飼育講習会（無料避妊手術希望者は必須条件）を将来は、これから譲渡会に参加して子犬をもらいたいと思ってい

表1 子犬の譲渡実績（大分県動物管理所分）（頭）

年度別	展示頭数 (延)	内訳		譲渡頭数 (実)	内訳		譲渡率
		オス	メス		オス	メス	
19年度	311	132	179	197	100	97	63%
20年度	258	113	145	208	92	116	81%

表2 譲渡犬無料避妊手術実績

実施時期別	頭数	備考
平成19年度（1月～3月）	17	1月から事業実施
平成20年度（4月～6月）	29	
（7月～9月）	30	
（10月～12月）	27	
（1月～3月）	19	平成20年度計105頭
計	122	

表3 平成20年度愛犬飼育講習会受講者数

開催回数	受講者数	備考
9回	142名	4月～10月は毎月第4日曜日開催 12月以降は隔月開催

る方々も対象にしたいと考えているが県の譲渡条件の中にこのことが盛り込まれないと実施は難しい。

初めて飼う人に事前に登録や狂犬病予防注射など法的なこと、混合ワクチンやドッグフードなど年間の必要経費等について事前に知識を得てもらうことで捨て犬防止にもつながってくるものと思われる。

4 事業実績

(1) 子犬の譲渡実績

平成19年度は延展示頭数311頭で内訳は雄132頭、雌179頭。そのうち譲渡された頭数は197頭で、その内訳は雄100頭、雌97頭であった。全体の譲渡率は63%で内訳は雄の譲渡率76%、雌の譲渡率54%であった。

平成20年度は延展示頭数258頭で内訳は雄113頭、雌145頭。そのうち譲渡された頭数は208頭で、その内訳は雄92頭、雌116頭であった。全体の譲渡率は81%で前年度より18%伸びた。内訳は雄の譲渡率81%、雌の譲渡率80%で前年度の54%から大きく伸びており、無料避妊手術の事業効果だと思われる（表1）。

(2) 無料避妊手術実績

平成19年度は事業着手が遅れ実際に現地の譲渡会で説明したのが平成20年1月8日開催の譲渡会からであり、周知徹底ができなかったため手術頭数も少なかった。

平成20年度については、事業内容も充分理解され、計画頭数80頭に対し105頭と大幅に伸びた（表2）。

(3) 愛犬飼育講習会

平成20年4月から譲渡者を対象に毎月第4日曜日、



図8 愛犬飼育講習会



図9 愛犬しつけ講習会

13時～15時の約2時間、講師として開業獣医師1名、行政（県職員）2名をお願いし一般的な病気の話、しつけ方、法律関係等幅広く講習を行っている。

4月から10月までは毎月開催したが、受講者が減少したので12月以降は隔月開催に変更した。20年度は142名の受講があった（表3）。

将来はこれから譲渡会に参加したいと思っているような人に多く参加してもらえるような事前講習会的なものに発展させたいと思っている（図8）。

(4) 譲渡犬対象の「愛犬しつけ講習会」の開催

5月17日（日）、動物管理所の子犬譲渡会で里親となった飼い主を対象にした「第1回愛犬しつけ講習会」を開催したところ多くの応募があり、当日は飼い主の家族約150人と犬50頭が参加した。家庭犬しつけインストラクターを講師に迎え、「初級コース」として「おすわり」「伏せ」「待て」といった基本的なしつけと散歩時のマナー等についての実地指導を行った後、「なやみ相談会」を行ったが、2名の講師の前には長い行列ができた（図9）。

また、しつけ講習会終了後には、ボランティアグループ「しあわせなしっぽの会」による「譲渡犬同窓会（図



図10 譲渡犬同窓会



図11 パン食い競争

10)」も催され、今では飼い主の温かい愛情に包まれたくましく成長した同窓の犬たちが久々の再会を懐かしむかのようななごやかな雰囲気の中で、「記念撮影会」や「ワンちゃんといっしょにパン食い競争（図11）」が行われた。

講習会は大変好評で、毎年開催したいと考えている。

5 今後の課題

県（行政）と獣医師会とボランティアグループの三者が一体となって取り組んでいる引取犬だけを対象にした

譲渡会はおそらく他県にはない事例だと思われる。

こうした活動が認められ平成19年度には環境省が企画制作した「より多くの可能性を」～民間との連携で広がる適正譲渡～のDVDで取りあげていただいた。

獣医師会のこの譲渡犬支援事業は譲渡会が続く限り継続して行くべきだと思うが、ボランティアの彼女達の意見は口を揃えたように「ここにくる犬がいなくなることが一番うれしい」という。

獣医師会としても1年でも早くその時がきて「譲渡犬支援事業」が不用の事業となることを期待している。